

DAYS 原発災害救援 対策フォーラム

DAYS JAPAN Measures for Nuclear Disasters Committee

2016年2月27日(月) 19時~21:30 (開場 18:30)

野方区民ホール 東京都中野区野方 5-3-1 ☎ 03-3310-3861 (西武新宿線「野方」駅から徒歩3分)

DAYS 原発災害対策を考えるシンポジウム

次の原発事故が起こった時 私たちは何ができるのか

福島第一原発事故が起こった時、あなたは何をしていたか覚えていますか？ ほとんどの人が、どうしたらいいかわからず、うろたえていたと答えています。あの事故からまもなく6年。この地震列島で、次の原発事故が起こる可能性は非常に高いことを、みんなが知っています。それが起こったら、あなたはどうしますか？ 再び、うろたえるしかできないのではないのでしょうか？ そしてやがて病気になる子どもに謝るのですか？ 「ごめんね。何もできなくて」と。

1 自衛隊の原発事故救援の課題

中村勝美

(元陸上自衛隊研究本部特殊武器研究室長)

2 避難の困難と提言

上岡直見

(環境経済研究所長 《技術士事務所》)

3 国会事故調の提言は、何が生きかされ、何が生きかされたか

田中三彦

(国会事故調査委員会委員)

4 次の原発事故でメディアは役割を果たせるのか

七沢潔

(NHK放送文化研究所上級研究員)

5 原発災害対策救援フォーラムの紹介

ヨウ素剤配布についてなど

広河隆一

(DAYS 被災児童支援募金・原発災害対策フォーラム世話人)

3・11の時、事故を起こした福島原発に向かったのは陸上自衛隊、中央特殊武器防護隊だった。上空から注水活動をしたのも彼らだった。だが現場では事故の状況は伝えられず、水素爆発の直撃を至近距離で受けた。あれから6年。自衛隊では次に起こるかもしれない原発事故に対してどのような対策を立てているのだろうか。

原発事故避難計画のスペシャリスト。福島の避難の検証や、新たな避難計画の問題点、首都圏最悪のシナリオとは。

NHK「ネットワークでつくる放射能汚染地図」のディレクター。原発事故後、ほとんどのメディアは退避する一方で住民には安全宣伝を報道。次の事故でメディアは何を改善するか。

入場料 1000円
申し込み
shienbokin@daysjapan.net
申し込みフォーム goo.gl/eVtjQO
電話 03-53376-7898